



「まち」の情緒を守り、「なみ」を育む、



「まち」の情緒を守り、「なみ」を育む、住人と観光客の両方に好まれる通りを目指して。

今回の設計課題は、大分県杵築市域下町における「まちなみ」の提案。かつては大変賑わっていた歴史的な町屋の立ち並ぶ商店街だが、現在は空き地が目立ち、機能や空間が分断されつつある。既存建築物の機能を連携しつつ、現在の「まち」に足りない機能を空き地に補うことで、まち「なみ」としての価値を高める必要がある。

私たちは足りない機能を「立ち寄り場」と考えた。

町の「おいさ」を体験できる場所にはお神輿を展示し  
杵築の歴史や文化を眺めることができる

石畳が非常に美しい酔屋の坂を歩き  
武士や町人のくらし・風景をめぐり歩き  
疲れた時には少しやすむことのできる  
「足湯」

祭りの期は前庭を開放し、多様に場をさせる  
「可変店舗」  
そこでは杵築の美味しいもの  
新鮮なもの  
新しい食文化の始まりを体験することができる

杵築の神輿や山車を眺め  
世代をこえて学び、伝え、共有していく  
「展示・学習エリア」  
普段は見ることのない山車を眺め  
その山車・祭り・文化  
について語り合い展示する場所

暖かいひかりを醸す  
「宿」  
行燈を思わせる暖かい外観  
一階には杵築の広場となるような  
座敷があり  
そこに集い町のことを考えることができる

一つ一つの建物が流れるようにつながり  
杵築の未来を考え発信していく  
住んでいる人が愛着と誇りを持ち、  
次の世代につなぐことができる杵築ならではのまちなみになることを望む。

